

C. B. C (サークル・バウンズ・キャッチ)

生野区スポーツ推進委員協議会

プロトコール

平成23年度版

、 挨拶、 トス

対戦チームは対戦前にあらかじめ、出場選手表を審判に提出しておく。出場選手表には各選手のゼッケン番号を記載しておく。

主審は試合開始時、両チームの選手を集めて、センターラインをはさんだ状態で向かいあわせ、整列をさせ、「挨拶、握手」を促す。

主審はチーム代表者(キャプテン)同士でトスをさせる。

トスの勝者にサーブ権の取得あるいは、コートサイドを選択させる。

トスの敗者に勝者が選ばなかった事柄を選択させる。

、 競技開始

それぞれのチームはあらかじめ提出していた出場選手表のうち、先発選手3名がコートに立つ。

主審はプレーボールと宣告した後「ピー」と長笛を吹き、サーブをさせる。

主審は得点やファールの際「ピッ」と短笛後、得点チームを手差しする。

おもに副審はファールの際「ピッ」と短笛後、反則行為を動作で指摘する。その後、主審は短笛後、得点チームを手差しする。

サーブ権を取得したチームは、選手の移動(ローテーション)を右回りでおこなう。

選手交代はチーム代表者(キャプテン)が副審に、インプレー以外の時点で、宣告する。

副審は主審に選手交代を伝え、主審は「ピー」と長笛をしてこれを知らせる。

タイムアウトはチーム代表者(キャプテン)が副審に、インプレー以外の時点で、宣告する。

副審は主審にタイムアウトを伝え、主審は「ピー」と長笛をしてこれを知らせる。

主審はセット終了時に「ピー」と長笛をしてから「第 1 セット終了」と宣言する。

主審は試合終了時に「ピー」と長笛をしてから「試合終了」と宣言する。

線審は判定の為に、エンドラインとサイドラインの角に立つ。右側にエンドライン、左側にサイドラインを見る位置に立つ。(2名の線審は対角の位置になる)

得点係は副審の後方で、主審が見やすい位置でこれをおこなう。

、 試合終了

主審は試合終了後、両チームの選手を集めて、センターラインをはさんだ状態で向かいあわせ、整列をさせる。

主審は勝敗結果を発表する。

主審はその後、両チームに「挨拶、握手」を促し、試合を終了させる。

、 審判の反則行為における動作での指摘方法

オーバーライン

・・・侵入の場所を指差しする。

オーバーエリア

・・・とおなじ。

アウト オブ ポジション

・・・反則チーム側の手の指を左回りさせる。

トラベリング

・・・指を3本立てる。

オーバータイムス

・・・指を3本立てる。

オーバーパス

・・・指を3本立てる。

ノーキャッチ

・・・ボールを持つしぐさをする。

インターフェア

・・・インターフェアがあった場所を指差しする。

、 その他の審判の動作

選手交代

・・・両手を縦回りに回す。

タイムアウト

・・・左手の掌を伸ばし下に向け横向きに、右手の掌を伸ばし縦にする。左手を上、右手を下にしてアルファベットの「T」の形をつくる。